

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度への取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do） (5月中に記入)

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野	ひと分野	担当課		高齢者支援課			
	政策分野	健康・福祉	課長名		下川 昭代			
	施策	20 地域包括ケアの推進		重点施策の該当	2019	-	2020	-
施策の目的	対象	高齢者		意図	住み慣れた地域で健康で生活できる			

施策の目標指標

目標指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					最終目標値
	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
要介護認定者平均介護度 (1号被保険者)	2.56	2.56	2.49	2.40 (2.56)	2.56	2.56	
元気度アップポイント商品 券交換数(枚)	5,390	6,957	7,261	8,357 (7,250)	7,500	7,750	

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

平成29年度実績		平成30年度実績		2019年度実績		2020年度実績		2021年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
86.8	36.3	88.3	37.7	88.3	38.6				
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
86	13.6	87.6	15.7	86.9	19.2				

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	長振策定時	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					最終目標値
			28年度実績	29年度実績	30年度実績	2019年度実績	2020年度目標値	2021年度目標値	
介護サービスの充実		総合相談延べ件数(件)	418	530	494	774 (590)	720 (620)	750 (650)	
介護サービスの充実		地域高齢者支援協議会数(箇所)	26	27	30	32 (32)	33	34	
介護サービスの充実		認知症サポーター数(人)	1,682	1,892	1,988	2,101 (2,000)	2,100	2,200	
高齢者の社会参加の促進	10-24	元気度アップ地域包括ケア推進事業登録団体数(団体)	74	78	86	95 (80)	95 (82)	100 (84)	
高齢者の社会参加の促進	10-24	元気度アップ・ポイント事業ポイント交換申請者数(人)	1,065	1,117	1,079	1,191 (1,200)	1,250	1,300	
高齢者の社会参加の促進	10-24	いきいき遊湯クラブ実施回数(回)	99	98	115	102 (120)	120	125	

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応	
・本市の高齢者を支える人口構造は、1.5人で1人(2015年)を支えていたが、近い将来は1.1人で1人(2030年)を支えていくことが予測される。 ・令和2年4月末の時点で、65歳以上の人口は5,665人で高齢化率37.8%(前年比1%増)となっており、そのうち一人暮らしの高齢者は2,119世帯(前年比18世帯増)、高齢者のみの世帯・人口は3,309世帯・4,518人(前年比39世帯・64人増)となり、年々高齢化が進行している。 ・高齢化の進行と比例して認知症患者も増加しており、国においても令和元年6月に、「共生」と「予防」を2本柱に据えた新たな「認知症施策推進大綱」を決定した。本市の65歳以上の要介護(要支援)認定者における認知症高齢者数は727人(R1.10.1時点調査)で、前年同時期より15人増加し、高齢者全体の13%弱を占めており、包括支援センターに寄せられる相談も増加している。平成31年4月には市内の病院が「認知症疾患医療センター」に指定され、専門的な相談や鑑別診断が受けられるようになった。	
施策の成果(貢献度の高い事業等)と現状・課題	
成果	・元気度アップポイント事業、地域サロン及び元気アップ教室の参加者数は年々増加しており、高齢者の社会参加や健康づくり、生きがいづくりに対する機運は高まっている。また令和元年度より鹿児島大学病院と連携し、元気アップ教室等の「通いの場」を活用して、高齢者の口腔機能や栄養状態・社会参加の状況などを総合的に評価する「種子島スタディ」事業を開始し、フレイル対策の取り組みを進めた。 ・高齢者支援協議会や認知症サポーター数も増加しており、地域で高齢者を支える体制づくりも着実に進んでいる。 ・認知症施策については、認知症初期集中支援チームによるケース検討会議を定期的に開催し、関係機関と連携して困難事案に対応するほか、認知症カフェの設置も3か所に増え、認知症高齢者やその家族への支援に努めた。
現状・課題	・住民主体の「通いの場」は多くの地域で設置され参加者も増えているが、男性の参加者は2割程度で少ない状況である。またサロンなどの集まりが活発になる一方で、老人クラブの加入者は、組織的な活動への負担感があるためか、年々減少傾向にある。 ・包括支援センターに寄せられる相談内容は複雑多様化しており、解決のためには、様々な関係機関との、より緊密な連携が必要である。 ・一人暮らしや身寄りのない高齢者の世帯が増えており、日常の暮らしの見守りのほか、様々な形での支援が必要となっていることから、地域が抱える課題も含めて幅広く地域づくりの側面から事業の推進を図る必要がある。

施策マネジメントシート ～2019年度の振り返りから2020年度の実行へ～

今後の方向性	今後の方向性の根拠等(他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入)
拡大・充実	・高齢化が進行し、支える側の現役世代が減少していくなか、「地域包括ケア」の重要性はますます高まっていく。いくつになっても住み慣れた地域で、自分らしい自立した生活を続けていけるよう、地域、関係機関、事業所等との連携をさらに強化し、支援が必要な人を地域全体で支える体制整備を図っていく。また、要介護状態となることを防ぎ、元気な高齢者を増やしていくため、より一層、「介護予防」と「社会参加」の推進に努める。

②-2 政策部会による振り返り(Check)

(6月中に記入)

今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等(将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など)
拡大・充実	【市民福祉部会】 ○施策担当課の記載する方向性のとおり。